

令和7年度学校評価表

品川区立豊葉の杜学園

校長

柳岡 裕幸

豊葉の杜学園校区教育協働委員会

委員長

澤野 由紀子

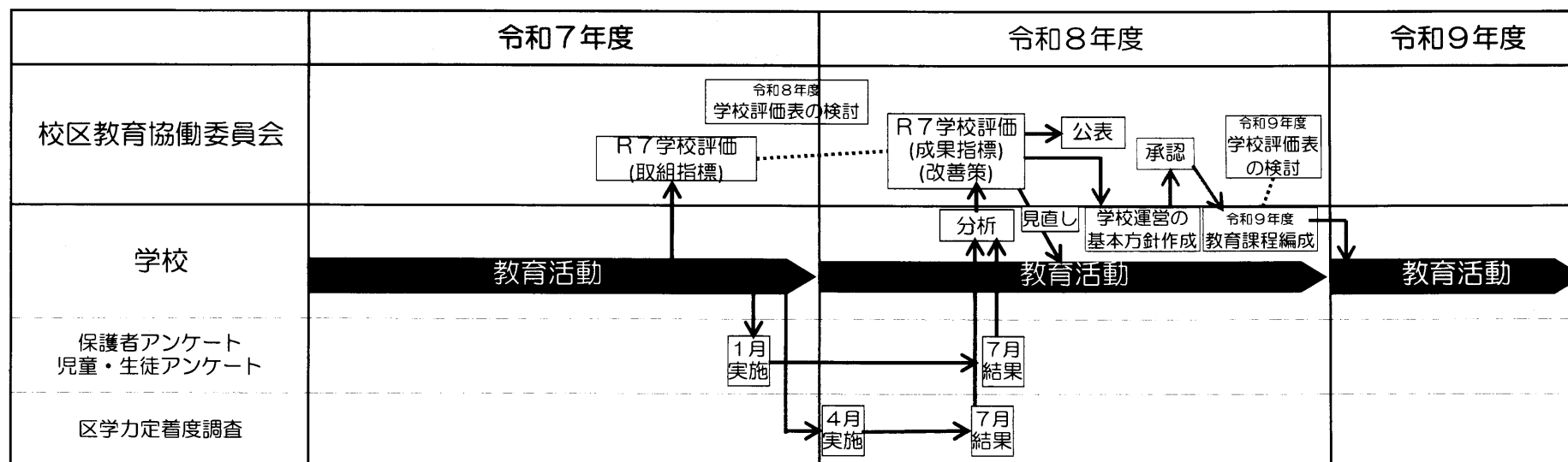
校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。

学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和7年度の学校評価が令和8年度および令和9年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和7年度 学校評価 品川区立豊葉の杜学園

評価項目1 学力に関すること

重点目標		○自分の人生を切り拓くために必要となる基本的な資質・能力と、自ら課題を見付け、解決を目指して計画的に行動できる実行力を育む。 ・授業改善 ・学びに向かう力・姿勢・授業規律		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	区の学力定着度調査において、各教科の平均正答率が目標値を上回るようにする。	3つの学年は全ての教科で目標値を上回っている。本校の課題は理科であり、5つの学年で目標値を下回っている。また、社会科においても、2つの学年で目標値を下回っている。前期課程は目標値の少し上の教科が多いが、後期課程は10ポイント近く上回る教科もある一方、下回る教科も7ポイントほど低いという差が見られる。	B	【課題】 ・学習内容の習熟度に差があるため、児童・生徒の学校並びに家庭での学習への取り組みに対し、肯定感を上げる。 【改善策】 ・引き続き、ルーブリック評価を用いた授業改善を基に、児童・生徒の学習意欲を高め、学力向上を図る。 ・宿題は「学校で何を学んでいるか」「学習内容がどの程度定着しているか」「学習習慣が身に付いているか」を家庭に知らせる一つの手段であることを保護者に伝える。その上でそれぞれの児童・生徒に合った宿題の量や内容であるかどうかを見直し、学習習慣を身に付けることを徹底する。
	全教職員が12月までに互いに授業を見合う「授業力ペアリングシステム」に取り組み、授業改善を図る。	ペアリングシステムを1月末までに実施し、校内研究で取り組んでいるルーブリック表の使用を促した。全校の教員で主体的に取り組むことができ、授業改善をすすんで行おうという意識を共有できた。	A	
	言語能力、情報活用能力、課題発見・解決能力の育成を日々の授業の中で重点化し、校内研究と連携して取り組む。	ペアリングシステムと関連し、全ての教員にとって新たな取り組みとなったため、「まずは自分が実践してみる」を合言葉に、全教員が様々な場面で3つの資質・能力の価値付けを行った。	B	
	児童・生徒が学びを実感できるルーブリック評価表を作成し、授業の最後に、本時の到達度の振り返りを行う。	授業において本時のめあてを示すことはもちろん、主活動の前に達成すべき活動の目標を数字を用いて具体的な姿で示すことで、児童・生徒が意欲的に活動に取り組むことができた。	B	
②	「豊葉の杜学園の学習」の振り返りで、学習に向かう姿勢の項目で肯定的評価を80%以上にする。	昨年度に引き続き、肯定的意見が80%を超えている。ルーブリック表による見通しが有効であると考え。学習の意義については、児童・生徒に興味や関心をもたせる指導を続ける必要がある。	B	【課題】 ・話の聞き方や理解度、学習態度の個人差が大きい。ため、スモールステップで達成感を味わわせる等の授業改善を行う。 【改善策】 ・発達段階に応じた「話の聞き方」「学習態度、授業規律」の指導を引き続き徹底する。また、定期的に振り返り、価値付けを行い、児童・生徒の意識の向上を図る。
	1～6年生は「正しい姿勢」と「学習の5項目」、7年生以上は「授業力規律向上のための取組」を学校共通の学ぶ姿勢とし、定着させる。	学習の5項目を教室に掲示し、児童の目に付くようにしている。指導者も継続して声を掛けることで、学校共通の目標としている。7年生以上は委員会の取組と連携し、授業規律の向上を教員だけでなく生徒同士でも呼びかけることができた。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和7年度 学校評価 品川区立豊葉の杜学園

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		○心豊かで互いに理解し合い望ましい人間関係を築くコミュニケーション力をもつ児童・生徒を育成する。 ・挨拶の励行 ・交流活動の充実		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	校内アンケートの「児童・生徒がすすんであいさつをする」の項目で、肯定的評価を80%以上にする。	アンケート結果は、「児童・生徒がすすんであいさつをする」は80%「正しい言葉づかいで話をする」は87%となり、ともに目標値を超えた。児童・生徒会活動のあいさつ運動や行事での異学年交流での成果があった。	A	【課題】 ・継続的かつ学校全体で挨拶運動を行っていく。 ・市民科授業のさらなる充実を図る。 【改善策】 ・児童・生徒会が行っている挨拶運動を継続的に行っていく。また、生活委員会と協力して挨拶運動を行う取組も行っている。今後は、役員や委員会に所属できない1～4年生の児童も挨拶運動に参加できるようにしていく。 ・市民科推進教員が中心となり、市民科で使用した教材やワークシートをデータで共有できるようにしていく。
	全校朝会において、生活指導主任から全校児童・生徒に向けて挨拶の意味や重要性について講話を行う。	月はじめの全校朝礼で、生活目標や安全指導重点項目についての講話を行うことで、全校で統一した指導を行うことができ、安心・安全学校生活の実現につなげることができた。	A	
	市民科授業において、人間関係形成領域の学習でロールプレイの時間を確保するなど、の充実を図る。	適時ロールプレイを用いた活動を行うことで、日常に生かす意識の向上を図ることができている。9年間を通して計画的に行えるようにすることで、より充実を図れるようにしていく。	B	
	児童・生徒会活動において、挨拶運動等の自主的な啓発活動を工夫させ、意識を高める。	児童・生徒会や生活委員会を中心とした挨拶運動を通して、すすんで挨拶をする意識の向上を図ることができた。朝の挨拶だけでなく、返事や感謝の言葉などの、コミュニケーションの基本となる挨拶に対する意識の向上も図れるようにしていく。	B	
②	学校風土調査で「友達と仲良くしている」の項目で「良い」以上の評価にする。	学校風土調査の「この学校の児童生徒は、お互いのことを尊重している」でとても良いという評価になっている。多くの児童・生徒が仲良くお互いを尊重しながら生活することができた。今後も児童・生徒の様子を把握しつつ、よいところを伸ばせるように支援を行っていく。	A	【課題】 学級風土調査の「学校の活動を友達と一緒にすることを楽しんでいる」の項目で区の平均を上回る。 【改善策】 児童・生徒が達成感を感じたり、主体的に取り組んだりする行事や交流、委員会活動を行う。
	異学年との交流活動、学級活動、学校行事等の取り組みを充実させ、児童・生徒の主体性を育む。	児童・生徒会活動を充実させ、主体的に委員会等の仕事に取り組ませることができた。行事や年間の交流活動を通して、相手意識をもって活動させることができた。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和7年度 学校評価 品川区立豊葉の杜学園

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		○健康の保持増進および体力の向上を図り、将来を築くための良い習慣を身に付けるとともに、命を守る態度を育む。 ・体育授業の充実 ・健康に関する児童・生徒、保護者への啓発活動		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査において、全学年・全種目で東京都の平均を上回るようにする。	「体育の授業は楽しいと思うか」の質問に対し、全体の90%が肯定的な回答をしている。種目によっては東京都の平均を上回っているが、「ボール投げ」や「上体起こし」は全体的に数値が下回っているため、引き続き体力の向上を図る。	B	【課題】 ・体力を高めるための指導の工夫 ・家庭での日常的な運動の取り組みによる体力の向上 【改善策】 ・教材や教具の工夫を体育的行事委員会を通して全学年で共有し、どの学年も充実した体育・保健体育の授業をできるようにする。 ・各単元での準備運動や補助運動、補強運動にそれぞれの課題となっている体力項目の向上を目指す内容を取り入れて実施する。 ・ワンミニッツエクササイズの内容を精査し、家庭学習の課題として提示し、保護者を巻き込み一緒に取り組むように呼び掛け実施させる。
	ICT機器を活用し、自分の動きを分析することで課題や技能の向上に気付かせ、自ら運動に取り組む姿勢を育成する。	体育科の授業でどの学年もICT機器を使用した振り返り、分析をする内容を取り入れて実施することができた。体育科の先生がいる学年が、積極的に取り入れているので、その取り組みをロイロノートに残して、次年度つないでいく。	B	
	テクニカルアドバイザーや体育講師を活用し、高める指導の工夫を行う。	テクニカルアドバイザーや体育講師と連携し、授業を展開することで、より丁寧な指導を実施することができ、児童・生徒の運動技能や思考力の向上を図ることができた。	A	
	スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズを活用し、運動の日常化を図る。	全学年で3種目以上スポーツトライアルを実施した。ロイロノートの資料箱にワンミニッツエクササイズの冊子を入れ、いつでも閲覧できるようにした。長期休業中の課題として提示し取り組ませた。	A	
②	東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査において、健康の保持増進と良い生活習慣の項目で、肯定的な評価を8割以上にする。	「朝食を食べているか」や「睡眠時間はとれているか」などの質問項目に対し、肯定的な回答が80%以上になっている。しかし、パソコンやタブレット端末などの画面を見ている時間が、学年が上がるにつれて増えている傾向にあり、適切な使用時間を心掛ける指導を継続する必要がある。	B	【課題】 ・高学年のPCやタブレットの適切な使用時間 ・健康増進のための生活習慣づくりの定着 ・校内の教育活動を生かした他者理解の深化 【改善策】 ・市民科や保健、保健体育の授業で「生活習慣と健康についての関わり」を9年間系統的に指導する。 ・保健だよりや給食だよりを活用して、規則正しい生活習慣の啓発を推進する。 ・スポーツや音楽、芸術などの様々な体験や講演を通して、多様な価値観を知る。 ・聞こえの教室や難聴学級との交流を計画的に行い、障がいについて学習を行う。
	毎月の保健だよりを発行し、良い生活習慣について家庭を巻き込んだ啓発活動を行う。	保健だよりを発行して、家庭にも啓発することができた。養護教諭から、学年に合わせた保健指導を毎学期行い、生活習慣について考える指導を行うことができた。	B	
	障害者理解・共生に向けた学習やアスリート、アーティスト等の交流を通して、体力や健康に対する関心や意識を高める。	デフリンピックの競技を実際に見学し、障害についての理解を深めたり、あきらめず目標を達成することの大切さを学んだりすることができた。きこえの教室の先生による授業を実施し、日常的に使える手話を練習したり、聞こえにくさを体験したりして、関心をもたせ、理解を深めることができた。	A	

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		○いじめの定義の正しい理解に基づく確実な認知の徹底を図り、いじめをしない・許さない児童・生徒を育成する。 ・人権教育の充実 ・情報モラル教育の推進		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	デイケン・いじめDアンケート等を活用し、いじめの未然防止や予防的な指導を行い、否定的な回答を0に近付ける。	全学年で毎日デイケン、毎月いじめDアンケート、年3回のいじめ防止授業を実施して、いじめの未然防止・早期発見・早期対応をした。学校風土調査の項目「この学校の児童・生徒はお互いの事を尊重している」の評価が55.4ポイント(50が平均)で「とても良い」となった。	A	【課題】デイケン、いじめDアンケートで児童・生徒からの相談や報告に対応する際、すべての学年で統一した対応スピードを確保し、迅速かつ公平な対応体制を構築すること。 【改善策】毎週の生活指導報告会でデイケン、いじめDアンケートの対応状況を確認し、各学年担当から全教員に対して、迅速かつ組織的な対応ができるよう周知する。
	命の大切さに関するセーフティ教室や人権標語・ポスターの作成等を通して、人権教育の充実を図る。	市民科授業地区公開講座では、全学年で命の大切さをテーマにして授業を実施した。また、人権のひろばでは、全学年で人権標語を作成し、5、8年生が人権ポスターを作成し、啓発活動を行った。	A	
	いじめ防止・不登校対策委員会と子ども健全育成部を中心とし、生活指導報告会等で、いじめの実態把握に努める。	デイケンやいじめDアンケートを活用し、児童・生徒の細やかな変化や様子を把握することに努めて、生活指導報告書を各学年で毎週作成している。毎週の生活指導報告会や毎月のいじめ防止対策推進委員会・不登校対策委員会で未然防止や実態の把握、早期対応を行った。	A	
②	校内アンケートの情報モラルに関する項目で、肯定的評価85%以上を達成する。	情報モラルについて概ね80%が肯定的に答えている。その一方で、インターネットを通じたゲームやSNSでのトラブルが報告されている。情報モラルに対する意識を向上することが必要である。	B	【課題】SNSを通じたトラブルを防ぐため、情報モラル教育をすべての教育活動を通じて組織的・継続的に実施し、児童・生徒の情報リテラシーと安全意識を定着させること。 【改善策】セーフティ教室や市民科授業での指導に加え、全校朝礼での講話や安全指導日の指導の中に情報モラルに関する注意喚起を組み込み、全教員で組織的に繰り返し指導していく。
	情報教育(SNSの使い方・ネットトラブル防止)に関するセーフティ教室を行い、発達段階に応じた指導を展開する。	5年生以上のセーフティ教室で、情報教育について警察や企業の方から講話をしてもらった。1～4年生は、市民科の学習でSNSの使い方等について年1回以上行った。	B	
	市民科授業で、情報教育の単元に取り組み、利便性や危険性を理解し、適切に対応できる創造的な態度の育成をする。	全学年で、市民科の学習で情報について取り上げた。1～4年生では、正しい機器の使い方について、5～9年生では、SNSや情報の正しい使い方について学習した。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成